



十勝の食品関心高く

東京で北洋銀、商談会

【東京】首都圏で最大規模という道産食品の商談会「北洋銀行インフォメーションバザール」

が27、28の両日、都内の五反田TOCで開かれた。十勝からは各社が参加、帯広畜産大学地域共同研究センターも企業と共同開発する新たな商品を売り込んだ。北洋銀行主催、道庁、札幌市共催。食品メーカーなど計約100社が、首都圏のスーパーなどの仕入れ担当者ら約1300人に商品をPRした。十勝からは、黒豆茶などのアクリシステム(芽室町)、豚丼のほけ天(帯広市)が出展。帯広地域共同研究センターも、フシ防災、ランランファームなどと開発、商品化した「かしわ茶」や、中田倉庫の「くん製豆腐」などをけん引、細目を釣巻

帯広地域共同研究センターの展示に見入る来場者ら

以上方丈とする白濁納糖の「ゼオライトマスク」を紹介した。

同センターの田中一郎(産学官連携コーディネーター)は「来場者が『試食品がおいしい』という思いがけない出合いだなと感じてくれ、手ぬるを感じている。一つでも多くの商談が成立するよう期待している」と語った。(深田隆也)